

優秀賞

高校生部門

神佐賀県唐津市

私立早稲田佐賀高等学校2年

中島 由莉子

ゆり〜！ごはんよーっ！！

「ゆり〜！ごはんよーっ！！」

私は、母のこの言葉がとてつもなく好きだ。

この、母の暖かい声が聞こえてくる度に、私の頭の中は沢山の母の手料理でいっぱいになる。「今日はオムライスかな。いや、ハンバーグかな」わくわくと期待のあまり、だんだんと階段を下りるスピードが速くなってゆく。家族の待つリビングへと繋がるドアを開けると、ふわぁ〜と美味しそうな匂いが漂い、私の心の中は、早く食べたい！という気持ちと、幸せに満ちた気持ちでいっぱいになる。

こんなにも、母のぬくもりを感じ、幸せな気持ちでいっぱいにしてくれる言葉は他にはないと、私は思う。

「ごはんよ〜！！」という母の声を聞くと、なんだかとても、ほっとしてしまう。そして、今日のごはんは何だろう？と考える、少しの時間が、とてつもなく幸せな時間なのだ。

リビングに行くと、家族がいて、そして、母の暖かい手料理が机いっぱい広がっている。

これは、ごくごく当たり前なことなのかもしれないが、私にとっては「ごはんよ〜」から始まる一連の流れが、とてつもなく好きで、とてつもなく幸せな時間なのだ。

食卓を囲む家族の姿を見ると、なんだか、ほっとする。家族みんなが揃う、その唯一の時間が、家族みんなの心を一つにして、繋げていてくれる気がするからだ。

生まれてから生涯を終えるまで、私たちは「食」と共に生きてゆくことになるだろう。1日に3回と限られた時間の中で、私達は何を考え、何を得ているのだろうか。

日々、積み重ねてゆく食卓の中で、家族の絆というものは、着実に、深まっていつている気がする。だからこそ、家族みんなと一緒にいられる時間、そして空間を、大切に生きていきたい。そしていつか私も、お母さんになって言うんだ。「ごはんよーっ！！」っとな。